

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービスことり公園		令和 7 年 5 月 30 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	その日の利用人数や活動内容により、部屋やスペースを分けて支援している。場面ごとにある程度のスペースを分けたり、トラブルやぶつかり防止のための安全スペース（子ども同士の間隔）を確保をしている。	子どもごとの特性により、遊具の使用方法（遊び方）が異なり、場合によっては他の子どもの危険に繋がる状況があるため、ある程度の遊びのルール作りを職員と子どもが共有していく必要がある。対応がバラバラになることで、子どもが混乱しないようにしていく。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	そもそもの子どもの体調や気持ちの不調時を踏まえ、実施予定のプログラム内容を変更したり、その日の取り組めるように調節して無理なく活動するなどし、必要な人員に余裕を持たせるようにしている。	送迎実施中の職員数やその日の子どもの調子によって、複数名が同時や連鎖的に個別対応が必要となる場面は、やや人員的に難しいと感じる場合がある。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	ロッカーなどには顔写真を活用したり、トイレなど生活に必要な箇所には視覚支援を行っている。段差等があり、スロープの設置をするとかえって危険な場所等は、必要に応じて歩行が不安定な子どもなどには声掛けや付き添うなどして安全に配慮している。あらかじめ危険と思われる場所にはクッション材になる物等を設置し、安全への配慮を行っている。	必要以上に声掛け等をしなくても良いように、また自立を促すためにも、子どもたちが自分で見てわかりやすい構造化を図っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		なるべく色々な子どもの状況（たくさん体を動かしたい、静かに過ごしたいなど）に合わせ、それぞれが心地よく過ごせるように部屋の用途を区切ったり、同じ空間でもクールダウンできるスペースを作って過ごしてもらっている。	清潔かどうかが目視ではわかりにくい箇所もあるため、安全点検も含めて事業所内の消毒などの衛生管理チェックも行うようにする。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		その日の状況に合わせて、自ら自由に個別スペース使用してもらっている。	個別スペースを使用したい児童が複数重なった場合も想定し、対応を検討していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	事業所全体で各職員の目標や役割分担表を作成し、業務改善を進めている。	月や日々のミーティングなどにより、事業所全体の中で職員一人ひとりが意識してPDCAサイクルに参画できるようにしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		評価表回収率アップのために、面談時等に改めて内容を伝えていき、保護者評価についての依頼している。	評価内容について、事業所全体で検討していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	その都度、職員同士で意見交換を行っている。	ミーティング等にて意見を吸い上げ、出た意見に対しての事業所での対応などを記録に残すようにする。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	外部からの意見も取り入れられるように、他事業所や相談支援事業所の見学の受け入れを行っている。	必要に応じて第三者評価を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		法人内研修、市や連絡会での外部研修も活用しながら、資質の向上を図っている。	研修の内容は代表参加者からの伝達になる事が多いため、なるべく多くの職員が受講できるようにしていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		法人ホームページに支援プログラムを公表している。	支援プログラムは定期的に、支援内容に相違がないかなど見直しを行っている。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		契約時やモニタリング時に面談を行い、可能な限り関係機関等の情報や検査結果資料を下に分析し、計画書を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		日々職員からの聞き取りしながら共通理解を深めている。	共通理解を深めるため、定期的な会議等を行い、計画について再認識、検討を行うようにしていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		日々の情報共有（シートを活用）を行い、支援内容を行うようにしている。	計画書作成時、職員全体の意見を含めて、状況等も踏まえ、児童や職員が無理なく行える計画になるように考慮していく。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	2	発達検査等の資料があれば保護者に情報共有を依頼しています。難しい場合は、標準化されていないアセスメントツール（日々の記録や面談記録）を使用して児童の状況を確認している。	より専門的で標準化されたアセスメントに繋がっていきようにしていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個別支援計画書には「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」のねらいや支援内容を踏まえて、具体的な支援内容の設定を心掛けている。	「地域支援・地域連携」についてもこどもの状況に応じて設定していくようにする。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	毎月複数人で話し合い、立案を行うようにしている。	より事業所全体で活動プログラムの立案を行えるように、それぞれの職員がプログラム内容について考え、話し合える機会を設けている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		同じテーマや季節の行事でも、内容にバリエーションを持たせたり、当日プログラムに参加するこどもに合わせて内容を変化させている。	毎月個々のこどもの好きな活動の一つ盛り込むなどして、活動内容がよりこどもの意向に沿ったものになるように工夫する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		こどもの状況に応じて、個別活動と同じ興味や発達段階に向けたグループ活動などを組み合わせ支援が行えるように工夫している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	2	当日の支援内容や役割分担について確認を行っている。	場面ごとの細かい役割分担についても話し合い、連携を強めてより丁寧な支援を行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	終礼として、その日の内容についての振り返り等を行い、事業所での対応を検討している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1	日々の記録は連絡帳としても活用し、保護者へも支援内容を伝えながら、モニタリングにつなげている。	学校などの関係機関の情報も細かく記録する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		計画書内容についてモニタリングを行い、保護者面談での意見も踏まえて、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		個々のこどもの意見を取り入れながら、ガイドラインに沿った活動内容になるように工夫している。	5領域支援の観点も含めて、活動プログラム内容をより工夫していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	1	日々のおやつ提供や創作活動の中で、ご本人に選んで決めていただく機会を設定している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		サービス担当者会議には、児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	ご家族に聞き取りの上で、必要に応じて連携して支援を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		毎月学校や保護者からの行事予定を確認し、下校時刻の確認を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3	保護者の同意を得て、必要に応じて行っている。資料等からの情報も共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	2	保護者、相談支援事業所を通じてや事業所から資料をお渡しするなどして情報の提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	1	児童発達支援センターと連携した連絡会に加入し、定期的に研修に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5	地域交流イベントに参加し、地域の他のお子さんと活動する機会を設けている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		自立支援協議会に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		連絡帳の活用や送迎時、面談時に保護者へこどもの状況を伝え合い、発達の状況や課題への共通理解を深められるように心掛けている。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		事業所内でペアレントトレーニングを開催している。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		内容等に変更があった場合は書面や面談時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		こどもとは日々の活動や会話の中で、保護者様とは主に面談時等に意向を詳しくお聞きできるように心掛けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		計画書にて、口頭では説明が伝わりにくい点などは、計画書に詳しく記載したり、必要に応じて図などを入れ込んだ物にしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		随時送迎時、電話、面談等で相談に応じて話し合う時間を設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		5	希望がほとんどないため、ペアレントトレーニングを活用し、保護者同士の交流の機会にしている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情解決マニュアル作成し、苦情等に対しての体制を整備している。なるべく苦情に繋がらないように、事前に認識のすり合わせ等を事業所側から行うようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		毎月おたよりを発行し、活動概要や行事予定等を配布している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	1		こどもの利用中も個人情報の取り扱いに留意し、必要以上に書類等を出さないようにする。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	1	ルールや連絡等の内容は、口頭だけでなく、なるべく連絡帳やメール等文字で残るようにしたり、図など含めて視覚的にわかりやすいように配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	地域交流イベントの参加や買い物体験等で地域交流を図っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各マニュアル等を策定し、ファイルや冊子等にまとめて職員や保護者様へ周知できるようにしている。また避難訓練を毎月実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCPを策定し、定期的に実動的な避難訓練と合わせて、机上研修、訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	契約時に服薬や発作等のこどもの状況を確認している。定期的な面談時にも、状況の変化に合わせて情報を更新するようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	保護者に確認し、アレルギーがある場合は対応している。（食物アレルギーの場合は、個別に提供しないように取り除くなど）	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	安全計画に関する研修、訓練の実施、事業所での安全点検等を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	2		面談時等に改めて周知し、冊子にしてお渡しする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	事故やヒヤリハット事例が起きた場合には、原因や再発防止策を検討し、内容を共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修計画を立て、虐待防止研修を実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		こどもに対して身体拘束を行っているケースはまだないが、委員会等で日々の支援内容が身体拘束に該当しないかを職員間で検討している。	